

令和 7 年度第 5 回旭川市行財政改革推進委員会 会議録（要旨）



日時	令和 7 年 8 月 5 日（火）14:10～15:10
場所	旭川市総合庁舎 7 階多目的室
出席者	（委員） 遠藤委員・河崎委員・佐々木委員・西委員・長谷川委員・靱岡委員 （事務局） 中村副市長、熊谷総合政策部長、浅利行財政改革推進部長 総合政策部財政課 小澤次長・今田主幹・古川主査 行財政改革推進部行政改革課 梶山課長・中山課長補佐・水沢主査
公開・非公開の別	公開
会議資料	次第 資料 1 答申書（案）
議事要旨	
1 開会	・佐々木会長の進行で開会した。
2 議題	
(1) 令和 7 年度行政評価について	
答申の決定	・事務局から、資料 1 に基づき説明があった。 ・以下の進行と決定があった。 （委員）「旭川市私立高等学校入学一時金減免補助金」と「旭川市私立通信制高等学校入学時負担金等減免補助金」について、基本的には国の就学支援制度の拡充の動向を踏まえて必要性を考えるべきだが、子育て支援の意味では必ずしも国に合わせる必要はなく、市の施策として目的に沿った手法を検討することが重要だ。 （委員）子育て支援施策としてより効果的な方法の検討を求めることとし、その結果として、子育て支援施策全体の後退とならないよう当該補助金を残すこともあり得る。 （委員）「バーサーロペット・ジャパン開催負担金」について、参加者の増加につながる取組について、周知の徹底や観光客誘致など具体的に記載した方がよいのでは。 （委員）併せて文言の重複について修正願いたい。 （会長）「観光客誘致という視点も併せ持ち、参加者の増加につながるよう周知を促進するとともに、財源確保の取組についても検討していくこと」という文言に修正してよいか。 （出席委員）了承 （委員）「ICT パーク推進協議会負担金」と「ICT パーク運営負担金」について、評価は「継続」でなく、「見直し」とすべきで

	はないか。 (委員) 他の評価と比較し、補助金や負担金の積算や対象などの在り方に言及したものではないため、評価は「継続」でもよいと思う。しかし、決してこのままでよいとは思わない。寄附金や補助金などの独自財源をより一層確保することをはじめ、改善・見直しの方向として示した内容にしっかり取り組むことを求める。 (委員) 今回の 16 本の補助金等に対しては、「廃止」の評価をせず、廃止又は事業費縮減の検討指示にとどめた。しかし、市の財政が厳しくなっていく中で現実を見れば、身を削る思いだと思うが、本来は「廃止」が含まれるべきだった。この 16 本を含む全 300 本の補助金等の 2 次評価や所管部局の対応に当たっては、「廃止」もしっかり進めなければいけないことを踏まえ、必ずその目線を持って進めてほしい。
答申	・ 佐々木会長から中村副市長に答申書を交付した。 ・ 以下の意見があった。 (委員) 市の施策を考える際に、将来を担う若い世代が参画することの意義と重要さを強く感じた。 (委員) これまでもこのような形で市の施策に関わりがあったが、補助金と負担金の性質の違いなどを考え直す契機となった。 (委員) 市の財政規模は大きく、様々な事業があり、方向性を決めることは難しい。勉強して委員として貢献できればと思う。 (委員) 白熱した議論となった。イベントや施設運営、様々な面で周知不足を感じた。良い事業はしっかり伝えなければもったいないので PR に努めてほしい。 (委員) 予算や事業の手法や区分を考える機会となった。若い世代が本市にとどまるような魅力を出す施策が重要と感じた。 (委員) 効果の大きい事業とはどのようなものであるかと考えた。答申が市にプラスになることを望む。将来を考えて全体調整する部署は大変と思うが、しっかり進めていただきたい。
3 閉会	・ 佐々木会長の進行で閉会した。